

長野県発達障がい者支援対策協議会会長

Dr. 本田にインタビュー



私が答えます。

本田 秀夫 氏

信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室教授
附属病院子どものこころ診療部部長
NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」出演

一どのような経緯でこの「支援の例」を作成することになったのですか？

Dr.本田

LDのあるお子さんの中には、周囲に理解されにくく、適切な支援を受けられないまま月日を過ごしてしまう方がいます。そのような子どもがいない長野県にするためどうするか協議会で検討し、「支援の例」を作成することにしました。この「支援の例」は理想ですが、理想で終わらせるのではなく、当たり前の長野県にしていくための「目指す姿」と考えています。

一どのような方に参考にしていただきたいですか？

Dr.本田

LDと診断されているお子さんや親御様だけでなく、周囲の子どもの姿に「おや？」と思った方に参考にしていただきたいです。

一ご家族、学校の先生、支援者の皆様に一言

Dr.本田

私が眼鏡を使ってぼやけている文字や姿をはっきり見えるようにするのと同様、LDのある子どもに必要なあれば、タブレット端末の使用や課題量の調整等が当たり前認められる長野県を一緒につくりましょう！

「長野県発達障がい者支援対策協議会」では、乳幼児期から成人期までの各年代を通して一貫した支援のあり方を協議しています。

その取組の中で、教育分野と医療分野の支援者が連携し、読み書きに困難さのある等LDのあるお子さんに対する、小学校から高等学校までの「支援の例」を作成しました。

LDのあるお子さんが、しかるべき時にしかるべき支援を受けられるための参考にしていただくと幸いです。

この「支援の例」で例示しているLDとは

知的な発達に遅れはないにもかかわらず、文章を読むのが極端に遅かったり、文字を書いたり文章を綴ったりすることが難しかったりする状態にあるお子さんを想定して例示しています。

活用のポイント

○参考にしていただきたい支援の例ですので、このとおりではないと支援が受けられないわけではありません。

○お子さんの年齢や、お住まいの地域の支援資源により状況は異なります。ご心配な点がございましたら、とにかく早めに相談してください。

*相談先の例

- ・お子さんやご家族
特別支援教育コーディネーター
- ・支援者の皆様
発達障がいサポート・マネージャー

LDのあるお子さんに対する支援

早めの気づき
適切な学び

「支援の例」を参考に
みんなで「目指す姿」考えよう



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

発行 長野県・長野県教育委員会
(長野県発達障がい者支援対策協議会 監修)

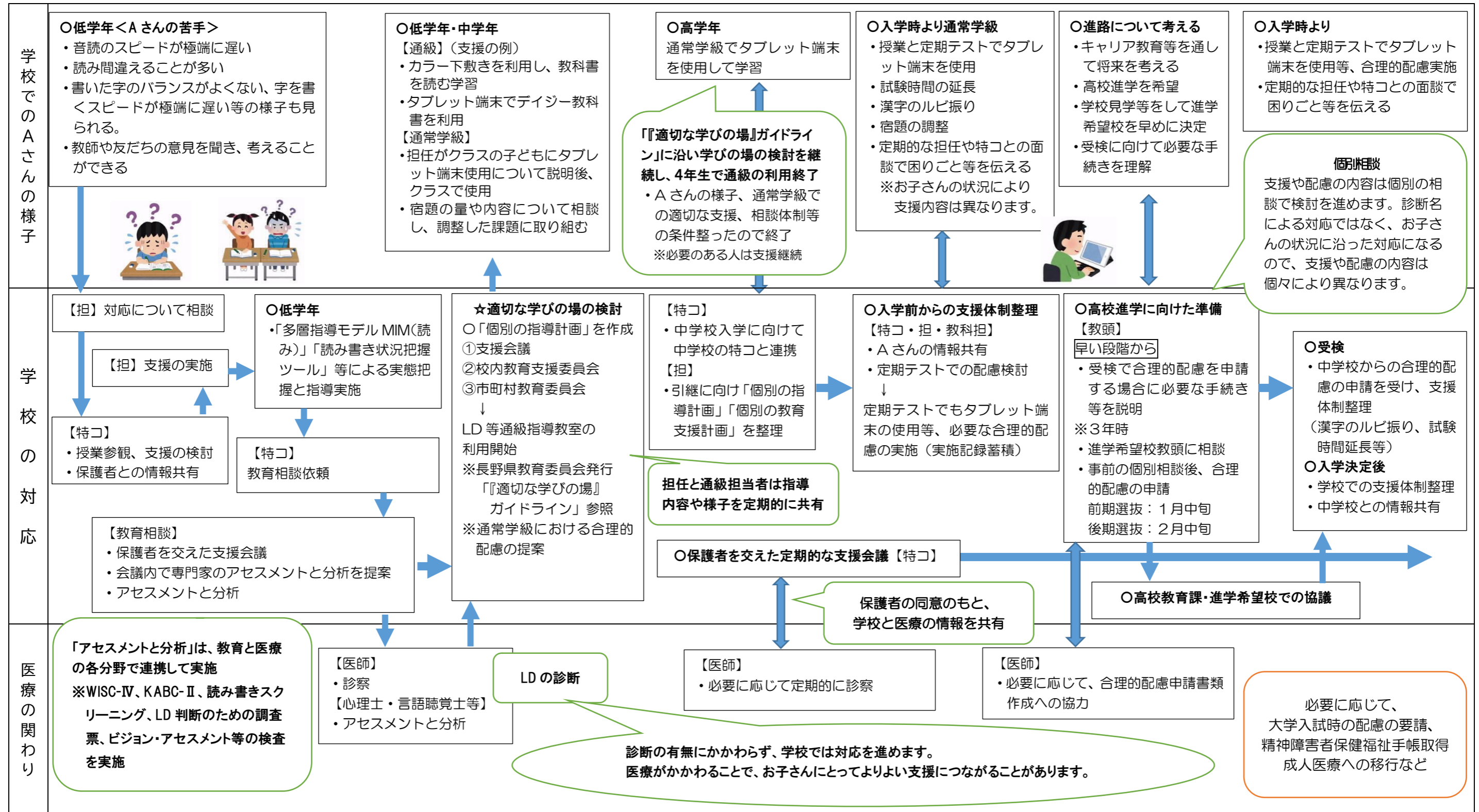
LD（読み書きに困難さ）のあるAさんに対する支援の例

小学校

中学校

高等学校

この図の中では、【担】：担任、【特コ】：特別支援教育コーディネーター、【通級】：LD等通級指導教室 を表します。



診断の有無にかかわらず、学校では対応を進めます。医療がかかわることで、お子さんにとってよりよい支援につながる可能性があります。